



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	外国人留学生の日本における就職活動に関する研究：北海道札幌市在住学生を事例として
Author(s)	高尾, 渉
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	学士
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/76873
Type	bachelor thesis
File Information	2019wtakao.pdf



平成 31 年度卒業論文

外国人留学生の日本における就職活動に関する研究
-北海道札幌市在住学生を事例として-

北海道大学 文学部 人文科学科
人間システム科学コース 地域科学研究室

指導教員:宮内泰介
学生番号:01152136
氏名:高尾渉

目次

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

1-2. 調査方法

1-3. 調査対象の概要

1-3-1. 北海道大学の外国人留学生・元外国人留学生と日本人学生

1-3-2. 北海道大学「現代日本学プログラム」について

1-3-3. 外国人留学生の就職活動に関連する各企業・組織について

2. 外国人人材・外国人留学生の日本就職の変遷と現状

3. 札幌の外国人留学生の就職活動の実態について

3-1. 日本就職の志向

3-1-1. 日本就職の動機

3-1-2. 企業選択の軸とその形成要因について

3-1-3. 外国人留学生の属性と日本就職の志向の関係性

3-2. 就職活動に関する情報収集について

3-2-1. 第一歩として機能する「セミナー」について

3-2-2. 「タテ」「ヨコ」のつながりを通じた情報収集

3-2-3. 外国人留学生の就職ポータルサイト利用

3-3. 就職活動と留学生コミュニティ

3-3-1. 外国人留学生を支える広く固いコミュニティー現代日本学プログラムを事例に

3-3-2. 外国人留学生の孤独

3-4. 就職活動の困難

3-4-1. 日本語に起因する就職活動の苦戦

3-4-2. 外国人留学生が「外国人」であること

3-5. 札幌と日本就職

3-5-1. 「札幌就職・札幌近郊就職」の位置づけについて

3-5-2. 就職活動拠点としての札幌

4. 考察

4-1. 変化する就職活動

4-2. 今後の展望

5. おわりに-「外国人留学生の就職活動」から多様性について考える-

6. 謝辞

7. 参考文献

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

現在日本では少子高齢化の進展と労働力人口の減少を背景に、今後人材不足が深刻化することが予測される中で、外国人労働者の活躍が期待されている。2019年4月には改正入国管理法が施行され、今後ますます外国人の採用が増える見込みである。そんななか、特に日本に訪れる外国人留学生は卒業後に日本に留まるグローバル人材の「卵」¹としてしばしばみなされている。実際に「高度外国人人材」も留学生を語る際の枕詞として扱われることが多く、その受け入れが国家戦略とまで高く位置付けられている現状がある。これは2008年に打ち出された「留学生30万人計画」²からも明らかであり、このように外国人留学生は日本の国益の追及³に活用されるようことが期待されている。一方で、実際に日本に訪れる外国人留学生の日本就職に対する志向はどうか。2018年に発表された三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の調査によると、2011年より留学生の総数の急激な増加を見せ、2017年の5月時点では267,042人と、2011年の約二倍の数へと膨れ上がった。留学生の増加に伴いその日本企業への移行数も年々増えており、2011年の8,586人から2016年には19,435人まで増加した。同調査では2005年度から2015年度までの日本就職⁴を希望する留学生の割合が明らかになっているが、2005年の56.3%から多少の増減はあるものの、2015年度の63.6%まで増加の傾向を見せている。また近年は世界各国において漫画やアニメなどのポップカルチャー人気が著しく、日本語学習者の数も増加の一途を辿っている。2011年からはインバウンド(訪日外国人)客数も増加の一途を辿り、2018年には年間3000万人を突破した。2020年の東京オリンピックの効果もあり、インバウンド客数は今後も増加傾向を見せると言われている。

以上のように海外における日本人気は目を見張るものがあり、実際に留学生数、留学生の日本就職成功者の総数は年々上昇している現状がある。しかしながら一方で、外国人留学生の日本における就職活動の苦戦がたびたび確認されている。三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の調査によると、2015年度の全外国人留学生の63.6%が日本就職希望者であったが、その半分を下回る30.1%の留学生しか日本就職を実現していない。この

¹ 李(2019)が日本における留学生を「高度外国人人材の卵」であると言及した。

² 2008年、福田政権時に2020年までに30万人の外国人留学生を受け入れること目的に発表された計画。大学卒業後に日本に留まり、高度外国人人材としての役割を果たすことができる留学生を獲得するべく、日本留学への誘い、入試・入学・入国の入りの改善等の能動的な施策が打ち出された。

³ 「留学生30万人計画」において外国人留学生は「国益の追及に活用されるべき」と位置付けられた。

⁴ 日本において就職をすること。

数値は 2005 年度の 26.5%から 3.6%しか上昇していない。また、中国出身・北海道大学農学院二年の E さんは以下のように語っている。

たしかに留学生だからといって拒否されることはありませんが、やっぱり日本人学生と比べると、(就職活動は) 難しいなって感じています。今はまだ 2 社受けていますが、両方とも落ちてしまったら、来年また就職活動をするか、国に帰るか考えないといけないですね。⁵

以上のように、実際に日本において就職活動をする外国人留学生からその困難を指摘する声が挙がっているのも事実である。また、就職みらい研究所実施の「就職プロセス調査」によると、2019 年 10 月 1 日時点における日本人新卒学生の新卒内定状況が 93.8%であった。外国人留学生の中には言語や文化の壁を越えたコンピテンシー⁶の高い人材が高い割合で存在することが想定されるが、日本就職の決定率は日本人学生との間に決定的な乖離が存在している。

以上で見てきたように、日本政府としては外国人留学生を高度外国人人材として積極的に活用したいという思惑から国費を投じた入口政策・定着制作を行っている一方で、実際の就職率、日本において就職活動をする留学生の声のどちらを見ても、その政策が結実しているとは言い難い。

何故日本における新卒学生の就職決定率において、日本人学生と外国人留学生の間に決定的な乖離が生まれるのか。就職活動の在り方の違いという観点からこれを議論しようにも、現状として外国人留学生の日本における就職活動の実態が明らかにされていない。外国人留学生は日本就職を志望するに至った背景やその言語力に起因する困難、志望先企業の受け入れ体制等を考えても、日本人学生とは異なる就職活動を経験することが予測される。一口に「日本における就職活動」と言っても、その主体が日本人学生か外国人留学生か、それが違うだけで、言葉が持つ意味合いが異なるのである。

そこで本稿では、現在までベールに包まれたままでその実態が明らかにされていない「外国人留学生の日本における就職活動」について議論したいと思う。単にその実態を明らかにするに留まらず、これまでの外国人留学生の就職活動の在り方に触れつつ現状を把握し、今後の展望についても議論する。

本稿では北海道札幌市を事例として調査を行う。北海道札幌市は日本国内においても最大規模である、1500 人以上の留学生数を擁する北海道大学が存在する。北海道大学キャリ

⁵ 2019 年 9 月、中国出身・北海道大学農学院 2 年 E さんの聞き取り調査より。

⁶ 高業績者に共通してみられる行動特性。「ある職務や役割において優秀な成果を発揮する行動特性」と定義されることが多い。

アセンターの寺嶋さんの話では、2018 年は 150 人を超える外国人留学生が日本就職を果たしたという。また北海道大学キャリアセンターが主催する外国人留学生セミナーには毎回 20 人を超える外国人留学生が参加し、北海道大学の外国人留学生の日本就職に対する意欲は年々高まっているとおっしゃっている。また北海道大学の日本人新卒学生の就職活動における「大手企業」志向がたびたび確認されており⁷、こういった学生は主に東京都や神奈川県などの首都圏を主として就職活動をしている。その際の地理的ディスアドバンテージについて、日本出身・農学院 1 年の M さんは以下のように語っている。

私が興味のある企業は全部本社が東京にあるので、インターンとか選考があるたびに毎回東京に行っています。まだ 12 月ですけど、今年だけでもう何回東京に行ったかな。あのね、はっきり言って毎週毎週東京行くのは辛いですよ。お金もめちゃくちゃかかりますし、時間もかかるので、研究と両立するのはかなり難しいです。⁸

以上のように、拠点を札幌において就職活動をするに関するデメリットは度々報告される。今回の調査では北海道札幌市を事例として行うことで、外国人留学生が札幌を拠点に就職活動を行うにあたって同様の困難を抱えているか、その地理的要因が就職活動の意思決定にどのような形で影響を与えるかについても議論する。

1-2. 調査方法

本調査では、主に北海道大学に在籍中の外国人留学生・北海道大学に在籍経験のある元外国人留学生計 14 名を対象にし、聞き取り調査を行った。本調査において聞き取り調査を行った外国人留学生・元外国人留学生は以下の 4 属性に分類される。

- 1) 日本就職を検討している外国人留学生
- 2) 日本において就職活動することを視野に入れ、その準備を行っている外国人留学生
- 3) 現在日本において就職活動を行っている外国人留学生⁹
- 4) 日本における就職活動を既に経験した外国人留学生・元外国人留学生

⁷ 2018 年 12 月、日本出身・北海道大学農学院 1 年 M の聞き取り調査、リージョンズ株式会社参与観察等より。

⁸ 2018 年 12 月、日本出身・北海道大学農学院 1 年 M の聞き取り調査より。

⁹ 2, 3 の明確な区別はつけられないため、外国人留学生本人の「私は既に就職活動を開始した。」という発言を基に分類した。

また、外国人留学生の就職活動と日本人学生の就職活動を比較検討するため、現在就職活動を行っている北海道大学に在籍中の日本人学生にも聞き取り調査を行った。また札幌市には外国人留学生の日本における就職活動のサポートを行う企業・組織が多く存在する。外国人留学生の日本における就職活動を多角的に分析するため、関連企業・組織の担当者にも聞き取り調査を行った。また人材紹介業を手掛けている企業 1 社にはインターンシップ生として参与観察を行った。

1-3. 調査対象の概要

1-3-1. 北海道大学の外国人留学生・元外国人留学生と日本人学生

本調査では 14 名の外国人留学生・元外国人留学生に対して聞き取り調査を行った。また 1 名の日本人学生に聞き取り調査を行った。聞き取り調査の概要は表 1 の通りである。

表 1 聞き取り調査の概要(外国人留学生・日本人学生)

聞き取り相手	所属	出身国	聞き取り調査実施日	1-2の分類
Aさん	北海道大学現代日本学プログラム3年	インド出身	2019年 7月3日、9月23日	2
Bさん	北海道大学農学院1年	中国出身	2019年 7月6日、10月18日	3
Cさん	北海道大学現代日本学プログラム3年	タイ出身	2019年 7月8日	3
Dさん	北海道大学現代日本学プログラム2年	ベトナム出身	2019年 7月11日、9月24日	2
Eさん	北海道大学農学院2年	中国出身	2019年 7月13日、9月21日	3
Fさん	北海道大学現代日本学プログラム2年	カナダ出身	2019年 9月24日	1
Gさん	北海道大学文学院2年	中国出身	2019年 10月10日	4
Hさん	北海道大学文学院2年	中国出身	2019年 10月10日	1
Iさん	北海道大学農学院2年	中国出身	2019年 10月18日	4
Jさん	北海道大学文学院2年	中国出身	2019年 11月5日	4
Kさん	北海道大学交換留学生(HUSTEPプログラム)	中国出身	2019年 11月8日	1
Lさん	北海道大学元情報工学研究室特別研究生	ドイツ出身	2019年11月14日、11月18日	4
Mさん	北海道大学農学院1年	日本出身	2019年 12月6日	3
Nさん	北海道大学交換留学生(HUSTEPプログラム)	台湾出身	2019年 12月6日	1
Oさん	北海道大学法学院1年	中国出身	2019年 12月16日	3

(筆者作成)

表 1 からわかる通り、本調査において大学院に在籍する外国人留学生 7 名、北海道大学現代日本学プログラムに在籍する 4 名、2019 年 9 月～2020 年 9 月の 1 年間の交換留学プログラムで北海道大学に在籍する交換留学生 2 名、2017 年 9 月～2018 年 9 月で北海道大学に在籍しており、在学中に日本企業から内定獲得し現在は母国で入社を待つ元特別研究生¹⁰ 1 名、計 14 名の

¹⁰ 学部間・部局間協定に基づき、授業の単位を履修することなく特定の専門事項について

外国人留学生・元外国人留学生に聞き取り調査を行った。北海道大学現代日本学プログラムは日本語能力を問わずに入学が可能である、4年間の学士プログラムである。このプログラムは他大学では見られない非常に稀な課程を持つプログラムであるため、1-3-2で詳しく説明する。また日本人学生の就職活動と外国人留学生の就職活動を比較検討するため、現在北海道大学に在籍しており、東京を中心に就職活動を行っている農学院1年の日本人学生にも聞き取り調査を行った。

聞き取り調査を行った外国人留学生・元外国人留学生を国籍別で見ると、中国出身が8名、インド出身、タイ出身、ベトナム出身、カナダ出身、ドイツ出身、台湾出身がそれぞれ1名ずつである。聞き取り調査を行った、大学院に在籍する外国人留学生はその全員が中国出身であった。日本の大学に在籍する外国人留学生は中国出身の学生が高い割合を占めるが、北海道大学の外国人留学生も例外ではない。さらに北海道大学の大学院に在籍する中国人留学生について、北海道大学キャリアセンターの寺嶋様は以下のように語っている。

いやあもうね、当センターを利用してくれる留学生のほとんどが中国の方です。しかもだいたい大学院の方々ですね。やっぱりそもそも大学院で留学している留学生の方々って中国の人が多いいですし、中国人留学生は一生懸命に就活¹¹をしている人が多いですね。3月の就活解禁に合わせて毎年大きい学内説明会をやるんですけど、外国人留学生向けのコンテンツも用意するんです。結構な数の学生が来てくれるんですけど、やっぱり中国人留学生が大多数です。¹²

以上の発言からわかる通り、北海道大学で就職活動をする大学院留学生は中国人学生が大多数を占める。しかしながら北海道大学において大学院留学をしている中国以外の国の出身の外国人留学生の存在も複数の聞き取り調査で報告されており、そのような学生に聞き取り調査を行うことができなかったことは本研究の限界であった。また大学院留学と比較すると、現代日本学プログラム、特別研究学生制度、HUSTEP¹³等の交換留学プログラムは、特定の国に偏りなく、様々な国や地域から外国人留学生を受け入れている。現代日本学プログラムを除き、これらのプログラムでは母校からの派遣という形で北海道大学に留学するケースが多い。そのような場合では外国人留学生は母校で自らの課程を残したまま留学をしているため、日本就職を志望していたとしても留学終了直後に勤務開始とはなりにくいという特徴がある。文系・理系の区別で見ると、文系学生が10名、理系学生が4名であった。¹⁴文系学生と比較して理系学生に対する聞き取り調査が少ない

研究を行うことを目的として北海道大学に1年間もしくは1学期間北海道大学を訪れる外国人留学生を指す。(北海道大学大学院通則より)

¹¹ 就職活動の略称。

¹² 2019年9月、北海道大学キャリアセンター寺嶋様の聞き取り調査より。

¹³ 北海道大学の外国人向け短期交換留学プログラムの名称。

¹⁴ 現代日本学プログラムは三年次より文系学部配属されるプログラムであるため、本調

点、農学院が3名、工学院が1名と聞き取り対象の所属学部には偏りがあった点は本研究の限界であった。

本調査では外国人留学生・元外国人留学生の聞き取り調査における会話を録音し、本稿では適宜彼ら彼女らの実際の発言として引用している。日本語能力に起因する細かい単語や文法の間違いは筆者がその意図を汲み取り、適宜修正した上で記述している。

1-3-2. 北海道大学「現代日本学プログラム」について

本調査において聞き取り調査を行った外国人留学生の中には北海道大学「現代日本学プログラム」に所属する学生が4名いた。現代日本学プログラムは他大学では類似のプログラムが確認されない稀有な課程であるため、ここで説明したい。

まず北海道大学公式ホームページ「現代日本学プログラム」において、現代日本学プログラムは以下のように紹介されている。

現代日本学プログラムは、外国人留学生を対象とした4年間の新しい学士課程プログラムです。本プログラムは、現代日本の社会や文化に関心を持ち、十全な英語能力を持った留学生に対して基礎・教養科目を英語で実施するとともに、日本語教育を重点的に行うことにより、日本社会に対する優れた見識を有し、日本社会のみならず国際社会においても日本の真によりきパートナーとして活躍するグローバル人材を養成する教育プログラムです。¹⁵

さらに現代日本学プログラムの4つの特色として、以下の4点が挙げられている

- 日本語習得のための集中的プログラム
- 4つの日本学の学問分野（歴史、文化、社会、制度）
- 日本研究と他の人文社会系学問との融合カリキュラム
- 日本人学生とともに学ぶ環境¹⁶

以上からわかる通り、現代日本学プログラムは、外国人留学生を日本語教育に重点をおいた4年間の学士課程を通し、国際社会において日本の真の良きパートナーとして活躍するグローバル人材を養成するプログラムである。現代日本学プログラムは2014年の10月から開始された留学制度であり、2019年12月現在において、6期生を迎えている。

査では現代日本学プログラムに在籍する学生は一律文系学生として扱った。

¹⁵ 北海道大学公式ホームページ「現代日本学プログラム」より

¹⁶ 同上。

現代日本学プログラムの特徴的な点は、「日本語を得意としない外国人」を「四年間の学士課程」で受け入れる点にある。多くの留学プログラムは入学時に日本語能力の証明、日本語試験を志望者に課すが、本プログラムは書類、英語能力、面接試験のみで留学が可能である。現在現代日本学プログラム2年生のDさんは以下のように語っている。

私は高校生の時から日本に興味はあったんですが、日本語は全然話せませんでした。日本に行く機会を探しているときに偶然現代日本学プログラムを見つけて、日本語能力がなくても四年間の学士課程に応募可能ということだったので、「これだ」と思って応募しました。北海道に来たばかりの時は全然日本語がわからなくて大変でしたが、入学の前に半年間日本語だけを勉強する時間があつたので、ある程度日本語がわかる状態で入学することができました。¹⁷

現代日本学プログラムでは、北海道大学の正規学生と同様に学期は4月から開始する。しかしながら日本語能力が乏しい状態で来札する学生(実際には数年間の独学により日本語の会話能力が著しく高い状態で来札する学生の存在も確認されているが)は、半年間の日本語学習期間を経たうえで正式入学となる。

正式入学後は現代日本学プログラムの独自の過程に沿う形で、基礎・教養科目や日本学の専門導入科目など、英語で行われる授業を履修し、並行して集中的な日本語教育も行われる。2年目終了時点において学生はJLPT(日本語能力試験)¹⁸においてN1、またはN2レベル相当の日本語能力を有していることが求められ、3年目からは各文系学部配属となる。また、現代日本学プログラムはその厳しい課程で知られており、タイ出身・現代日本学プログラム3年生のCさんは以下のように語っている。

授業が多く、毎日課題ばかりで、正直言って大変です。自分の代の現プロ¹⁹生の中でも何人かやめて、国に帰しまった人もいます。現プロ1期生の先輩達は最終的に半分しか残らなかったという話も聞いています。²⁰

¹⁷ 2019年7月、ベトナム出身・現代日本学プログラム2年Dさん聞き取り調査より。

¹⁸ 日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験として、国際交流基金と日本国際教育協会(現国際教育支援協会)が1984年に開始した日本語能力試験。受験者はN1からN5までの5段階で認定され、N1に向かうほどそのレベルが高い。N1は「幅広い場面で使われる日本語を理解することができる」レベルとされている。(「日本語能力試験」ホームページより)

¹⁹ 現代日本学プログラムの略称。

²⁰ 2019年7月、タイ出身・現代日本学プログラム3年Cさんの聞き取り調査より。

日本語能力が乏しい状態で日本を訪れ、厳しい課程をこなすことが求められるため、相当な量のストレスがかかることであろう。そのストレスに耐え切れず、途中でドロップアウトする者が現れることに無理はない。しかしながらその厳しい4年間をこなした学生は、相応の精神力、日本語能力、専門性を持っていることが想定される。

現代日本学プログラムは2019年12月現在において、その卒業生はまだ1期生しかいない。その進路は日本の大学院に進学する者、札幌のベンチャー企業に就職する者、東京の大手海運会社に就職する者など実に様々である。現代日本学プログラムにおいて4年間を過ごした学生は上記のような素養とコンピテンシーを保持していることが考えられるため、進路選択におけるアドバンテージがあると考えられる。中にはDさんのように、2年次から日本就職を視野に入れて、就職活動準備に取り組んでいる学生もいる。現時点で事例は少ないものの、今後現代日本学プログラム卒業生が日本語能力を有したグローバル人材として新卒学生の就職市場において高い市場価値を持つことは間違いないと言える。

1-3-3. 外国人留学生の就職活動に関連する各企業・組織について

北海道札幌市には様々な形で外国人留学生の就職活動に関わる関連企業・組織が存在する。本調査では表2の通りに調査を行った。

表2 調査の概要(関連企業・組織)

企業・組織名	調査方法	イベント名・聞き取り相手	調査実施日・期間
リージョンズ株式会社	インターン生としての参与観察		2019年1月～10月
札幌国際プラザ	イベント参加	就職応援セミナー	2019年9月26日
北海道大学キャリアセンター	聞き取り調査	寺嶋延彦様	2019年9月27日
札幌商工会議所	聞き取り調査	安井未央様	2019年10月9日
札幌国際プラザ	聞き取り調査	川畑恵様	2019年10月10日
札幌商工会議所	イベント参加	外国人採用に関する説明会	2019年10月15日
キャリアバンク株式会社	聞き取り調査	富樫杏奈様	2019年10月25日

(筆者作成)

本調査では表に記される通り、計5の関連企業・団体に協力をいただき、聞き取り調査、イベント参加、参与観察を行った。リージョンズ株式会社、キャリアバンク株式会社は共に札幌に本社を持つ外国人材を日本企業に紹介する人材紹介事業者である。サービスに登録をした日本で求職をする外国人材に対して面談を行い、各個人の志向や適性に合わせた企業の求人を紹介している。サポート内容は単なる求人の紹介には留まらず、紹介する人材と受け入れ企業の仲介役として、面接日程の調整から面接同席、内定獲得後の入社準備までフォローすることを特徴としている。しかしながら、両者ともその事業内容は外国人材一般を扱うため、外国人留学生のみを事業で

扱っているわけではない。むしろ 2019 年 11 月時点におけるリージョンズ株式会社の外国人材の紹介実績においては、新卒人材よりも中途人材のほうが多い。さらに言えばリージョンズ株式会社は日本の大学に在籍する外国人留学生の紹介よりも、海外大学を卒業する日本語が話せる人材の紹介に注力している。日本語学科が存在する海外大学まで足を運び日本就職説明会を開催する、海外で開催される日本語弁論大会に協賛するなどの活動を主に行っており、実際にリージョンズ株式会社の新卒人材の紹介実績のすべてが海外大学訪問時にコネクションを作った人材である。しかしながら、現代日本学プログラムに在籍する学生向けに日本就職説明会を開催する、北海道大学各学部棟でパンフレットを配布するなど、札幌の外国人留学生との関係形成にも意欲を示している。

一方でキャリアバンク株式会社の海外事業は「厚生労働省委託事業外国人留学生採用サポート事業」として政府の採択のもとに行われており、外国人留学生採用への注力が確認される。実際にキャリアバンク株式会社は外国人留学生を対象にする合同企業説明会の開催、インターンシップの提供、企業見学バスツアー等様々な形で日本就職を希望する外国人留学生のサポートを行っている。また外国人留学生からの企業認知も広がっているといい、キャリアバンク株式会社海外事業室の富樫様は以下のように語っている。

外国人留学生の皆さんに知ってもらえているなという感覚はありますね。大学と連携してイベントのパンフレットを置かせてもらったり、広く広報させていただいているので。また厚生労働省の事業としてやらせてもらっているのが大きいなと感じています。外国人留学生向けの合同企業説明会を行う際も企業の方々が安心して参加してくれるので、前回開催の際は 25 社も集まりました。イベントの規模が大きいと留学生の方も興味を持ってくれますし、そもそも(外国人留学生にとって)無料なので、たくさんの方に来ていただけています。²¹

以上の発言から、政府の委託事業として行う外国人留学生採用事業が信頼を獲得し、広く認知されていることがわかる。

北海道大学キャリアセンター、札幌国際プラザ、札幌商工会議所の 3 団体は民間企業の立場とは違うアプローチにおいて外国人留学生の就職活動に関わっている。北海道大学キャリアセンターは大学内の就職支援機関として、幅広い情報提供やイベント開催を行っている。主な活動は日本人学生に向けたものであるが、年々増加する日本就職を志向する外国人留学生の声に応えるべく、就職活動のアドバイスや外国人留学生向けセミナーを開催するなどの活動も行っている。北海道大学キャリアセンターは学内組織として活動可能である点がその他関連企業・組織との差異である。サービスやイベントの広報も各学部・研究室と連携して行うことが可能であり、その認知も広い。外国人留学生にとって最も利用しやすい支援組織と言える。

²¹ 2019 年 10 月、キャリアバンク株式会社富樫様の聞き取りより

札幌国際プラザは「国際都市札幌の実現を目ざし、札幌の有する歴史、文化、風土その他の地域的特性を生かした多様な交流の振興を図るとともに、多文化共生を推進し、もって地域の発展と世界の平和に寄与すること」²²を目的とする、公益法人である。札幌国際プラザは札幌を国際都市にふさわしい街にすることを基本理念としているため、その活動内容は多岐に渡る。外国人が住みやすい街づくりの一環として、同団体が管理する「札幌留学生交流センター」²³において定期的な外国人留学生向け就職セミナーを開催している。2019年9月26日に同センターで開催された「就職応援セミナー」では8名の外国人留学生の参加者を迎え、外国人材の採用を行う宿泊業界の企業2社が企業説明、その後には少人数座談会が行われた。外国人留学生にとって日本就職や当該業界に関する情報収集をする場として機能した。

札幌商工会議所はその他企業、組織とは違うアプローチで、外国人留学生の就職活動に関連する団体である。札幌商工会議所のホームページによると、商工会議所は「地域の商工業者の世論を代表し、商工業の振興に力を注いで、国民経済の健全な発展に寄与することを目的に活動を行っている団体」と位置付けられている。つまり商工会議所は「企業を支援する」という立場で活動を行うのである。札幌商工会議所国際課の安井様は以下のように語っている。

(札幌)商工会議所では平成15年から企業と留学生のマッチングイベントを行っておりますが、あくまで私たちの立場は企業の採用支援です。時代の流れもありまして、近年はインバウンドの観光客の数も増えていきますし、グローバル人材を採用したいという声も増えてきております。実際に北海道で働きたい留学生も増えてきておりますので、そういった企業の採用支援をして、札幌のビジネスを拡大させていきたいと考えています。²⁴

以上の発言からわかる通り、札幌商工会議所は結果として外国人留学生の支援を行う活動をしているものの、そのスタンスは企業支援である。外国人材を活用したビジネスの活性化が目的であるため、外国人留学生の採用にこだわりを持っていない点も確認されている。札幌商工会議所主催で2019年10月15日に開催された「外国人採用に関する説明会」では、札幌で事業を営む10の外国人材紹介事業者が外国人材採用を検討する企業の担当者に向けて事業概要説明を行い、その後はビジネスマッチングを目的とした交流会が開催された。同説明会に外国人材紹介事

²² 「公益財団法人札幌国際プラザ」ホームページより。

²³ 2000年に開館した札幌国際プラザが管理する留学生宿舎。100室の住居に、世界各地からの留学生やその家族、生活サポート役を務める日本人学生若干名が暮らす。

²⁴ 2019年10月、札幌商工会議所安井様の聞き取り調査より。

業者として参加した多くの企業・団体が在留資格「技能実習」²⁵もしくは「特定技能」²⁶で日本に滞在する外国人材の紹介を前提とした事業を行っており、日本就職をする多くの外国人留学生が取得する在留資格「技術・人文知識・国際業務」²⁷で滞在する外国人材の紹介を行う企業・団体は先述のリージョンズ株式会社、キャリアバンク株式会社のみであった。

²⁵ 公益財団法人国際研修協力機構によると、日本において企業や個人事業主等の実習実施者と雇用関係を結び、出身国において修得が困難な技能等の修得・習熟・熟達を図ることを目的とした外国人技能実習生が取得する在留資格とされている。長時間労働等の法令違反が問題になっている。

²⁶ 公益財団法人国際研修協力機構によると、日本国内では十分な人材の確保ができない14分野を「特定産業分野」として、特定産業分野に限って現場作業などの就労をする外国人が取得する在留資格とされている。2019年の4月から施行が開始した。

²⁷ 出入国在留管理庁によると、公私の機関との契約に基づいて行う理学、工学その他の自然科学の分野若しくは法律学、経済学、社会学その他の人文科学の分野に属する技術若しくは知識を要する業務又は外国の文化に基盤を有する思考若しくは感受性を必要とする業務に従事する活動を行う外国人が取得する在留資格とされている。

2. 外国人人材・外国人留学生の日本就職の変遷と現状

はじめに、日本の外国人労働者の受入れに関する経緯を概観したい。

1980 年代後半から 90 年代前半にかけて、バブル経済下の日本において経済社会の国際化と共に深刻な労働人口不足が発生した。アジアの諸外国は自国と日本との経済格差から日本への労働移動のメリットを発見し、同時期の日本における急激な外国人労働者の増加を招くこととなる。外国人労働者の受け入れに関する法整備がなされていなかった当時の日本では不法労働外国人の問題が度々議論されたため、1990 年の改正出入国管理法によって外国人労働者の在留資格の整備が行われた。

これ以降日本では外国人労働者の受け入れを拡大してきたが、とりわけ「高度外国人人材」にその焦点を当てられ、受け入れ推進が行われてきた。「経済財政改革の基本方針 2008」(平成 20 年6月 27 日閣議決定)では高度人材受入れ拡大の方針が示され、「高度外国人人材の卵」(2019, 李)とも言える外国人留学生が注目の的となった。このような文脈において発表されたものが上述の「留学生 30 万人計画」である。大学卒業後に日本に留まり、高度外国人人材としての役割を果たすことができる外国人留学生を獲得するべく、日本留学への誘い、入試・入学・入国の入りの改善等の能動的な施策が同計画では打ち出され、2008 年時点では 123,829 人で会った外国人留学生の数は 2015 年において 208,379 人まで増加した。2017 年には 267,042 人まで増加し、その出身地域の 93.3%がアジア諸国であることが判明した。

では、外国人留学生の日本就職に対する意識はどのような動向を見せているだろうか。株式会社フューチャー・デザイン・ラボ(2012)は、外国人留学生の就職活動における意識や実態を把握するために、全国の大学や大学院に在学中の外国人留学生を対象に 2012 年(1/9 ~3/31)、インターネット及びアンケート用紙によるアンケート調査を行った。その結果、約 4 割の留学生が将来的な起業を志向しており、就職先選択の際に最も重視するポイントが「将来性」であることが判明した。また約 4 割の学生が 5 年以上の勤務を希望していることもわかり、キャリア形成を主眼においた企業選択を行っていることが示唆された。株式会社ディスコ(2019)は、外国人留学生の就職活動状況を把握するために、2020 年 3 月卒業予定の外国人留学生 2,774 名(2019 年 12 月現在、大学 4 年生・大学院修士課程 2 年生)を対象に 2019 年(6 月 28 日~7 月 18 日)、インターネットにおいてアンケート調査を行った。その結果、約 6 割の学生が就職先を選ぶ際に重視する点として「将来性があること」を選択し、株式会社フューチャー・デザイン・ラボ(2012)が実施した調査と類似した結果が得られた。「就職後の出世希望ランク」においても、約 5 割の外国人留学生が「役員」「社長」のいずれかを選択し、この値において日本人学生と約 2 割の差をつけた。これらを踏まえて、概して外国人留学生は将来的な出世を視野に入れ、キャリア形成の第一歩として日本就職を選択する傾向を見ることが示唆された。

一方で、「日本での就職を希望する理由」において、2012 年に実施された株式会社フューチャー・デザイン・ラボの調査と、2019 年に実施された株式会社ディスコの調査で得られた結

果に大きな乖離が見られる。前者の調査では、「日本での就職を希望する理由」として最も多い約 3 割の学生が「日本企業で経験を積みたいから」を選択したが、後者の調査では約 6 割の学生が「生活環境に慣れているから」を選択し、これが最も多かった。前者は複数回答不可、後者は複数回答可であったため純粋な比較はできないものの、2012 年時点では外国人留学生がより強固なキャリア志向のもと日本就職を決意していたが、近年は留學生活の延長として日本就職を選択する外国人留学生が増加していることが示唆された。留學生 30 万人計画を境に外国人留學生の数が急激に増加した影響で、政府や大学による外国人留學生に特化したサポートが手厚くなったことも確認されている。日本に在住する外国人やインバウンド観光客も近年は急激に増加し、日本国民にとっても日常生活において外国人と触れ合うことは珍しいことではなくなった。こういった日本の「外国人慣れ」によって、外国人留學生が「日本就職」という選択肢をより選びやすくなったと考えられる。

また 2012 年の株式会社フューチャー・デザイン・ラボの調査では就職活動を行う上での不安として、最も多くの学生が「就職活動をどのように進めたらよいかわからない」を選択しており、当時は就職活動情報が外国人留學生まで行き届かない現状があったことがわかる。一方 2019 年の株式会社ディスコの調査では外国人留學生の類似の悩みは確認されず、むしろ就職活動の情報源として「留學生向け就職サイト」「日本国内学生向け就職サイト」「留學生向けの就職イベント(キャリアフォーラムなど)」「留學生・外国人コミュニティ」等の様々な情報源を複数利用して就職活動を進めていることが報告され、近年の外国人留學生の日本における「就職活動慣れ」も示唆される。

3. 札幌の外国人留学生の就職活動の実態について

3-1. 日本就職の志向

3-1-1. 日本就職の動機

外国人留学生は様々な動機をもって日本就職を目指している。本研究では計 14 名の外国人留学生・元外国人留学生に対して聞き取り調査を行ったが、それぞれが違う動機を持っていた。その理由はライフイベントなどプライベートの事情に関わるものから、今後のキャリア形成を見据えた上での選択、個人的な趣味嗜好によるものであった。日本で就職活動を行う外国人留学生はその属性から一括りで見られがちである。しかしながら彼ら彼女らは国籍や年齢も違えば、生まれ育ったバックグラウンドも全く違う。「日本で就職活動をする」という事実さえ共有はするものの、その動機が異なることは全くもって当たり前のことである。中国出身・北海道大学農学院出身の I さんは自身の日本就職の志望動機について以下のように語っている。

私は日本に来る前までは日本で就職をするなんて考えてもいませんでした。なんとなく外国の大学院に行きたい、という気持ちでした。それでも日本に来てから色々な経験をして、日本のことをよく知るうちに日本で働くのも悪くないなと思い始めました。あと札幌に来てからは自分にパートナーができて、その人がこれからも札幌に残り続けるので自分も札幌で就職しようと思って、こっち(札幌)で就職しようと思いました。²⁸

I さんは、来日前は日本就職に対する志望度が高くないどころか、そもそも日本を留学先として選んだこと自体が積極的な選択ではなかったことが窺える。しかしながら来日後の経験が自身の卒業後のキャリア選択に影響を与える結果となった。また、I さんのように個人的なライフイベントに起因する理由は、中国出身・文学院 2 年の G さんの動機からも確認された。また I さんのケースにおいては、来日後の日本に対する印象変化が日本就職の決め手となったと I さん本人が語った。以上のような印象変化に関しては中国出身・北海道大学農学院 2 年の E さんが以下のような発言をしている。

日本はもともと好きで、中国でも日本語の勉強をしていました。それでも働くイメージなんて全然なかったんで、卒業後は結局中国に帰るだろうと考えていました。(中略)結局日本で長く住んで「この国なら住める」と思ったことが、きっかけで日本就職を決意しました。

²⁸ 2019 年 10 月、中国出身・北海道大学農学院 2 年 I さんの聞き取り調査より。

Eさんは日本に來たばかりの大学院1年時の5月は自らの日本語が通用しないことに絶望し、中国語に帰りたいと考えていたという。それでも夏休み中に日本の高校訪問や農家訪問を経て多くの日本人と話し、日本を初めて肯定的に捉えられるようになったという。孤独を好む本人の嗜好もあいまって、母国である中国を離れ、友人知人の少ない日本で暮らしてみたいと考えるようになったと語った。またEさんは、聞き取り調査の中で自らの日本語能力に対して自信をもっており、仕事においてその能力を発揮したいという趣旨の発言を繰り返していた。福岡は三重県内の大学の外国人留学生を対象に行った「留学生の日本での就職に関するアンケート」において、日本で就職をしたい外国人留学生の就職希望理由の一位が「学んだ語学や専門を生かしたい」があることを明らかにした(福岡, 2015)。実際に筆者が聞き取り調査を行った外国人留学生・元外国人留学生の中で2,3,4に分類される者(本稿の1-2参照)は全てJLPT(日本語能力試験)においてN2、もしくはN1を取得している。聞き取り調査自体もKさんを除き、全て日本語で行うことが可能であった。またKさん以外の13人はその全員が学術機関での日本語学習経験が2年以上あることが判明した。ここから、日本語学習歴が長く、技能に長ける外国人留学生が、サンクコスト²⁹の回収を目的に日本就職を希望するということが示唆される。実際にタイ出身・現代日本学プログラム3年のCさんは自身の動機について以下のように語っている。

現代日本学プログラムは4年間かけて日本語や、日本の文化を学ぶプログラムです。自分はこれまで真面目に勉強してきたので、日本のこともたくさん知れましたし、日本語も話せるようになりました。今タイに帰ったらもったいない気がしていて、就職後も大学で学んだことを使って働きたいなと考えました。³⁰

外国人留学生の多くは来日する前に出身大学において日本語を学習しているが、日本語学習経験がないまま来日した外国人留学生であっても、その多くが日本において日本語の学習を始めることが確認されている。中国出身・北海道大学交換留学生のKさんは来日するまで日本語学習の経験が一切なかったという。しかしながら札幌で生活を送る中で「日本人の友人ができた」「日本人には英語が通じない人が多く、生活がままならない」等の理由から日本語学習を開始し、今ではその面白さに魅かれ、大学において週に複数回日本語の授業を履修している。また、既に日本語学習経験のある外国人留学生は上級日本語の授業を履修する、日本人コミュニティに属し実践的な会話をする等で日本語能力を伸ばしていることが確認されている。ドイツ出身・元北海道大学情報工学研究室特別研究生のLさんは、北海道大学在籍時に日本人しか在籍しないサークル活動や日本企業でのインターンシップに勤しんでいた。来日前から日本語能力試験でN1を持ってい

²⁹ 事業や行為に投下した資金・労力のうち、事業や行為の撤退・縮小・中止をしても戻って来ない資金や労力のこと。本稿では「無駄になる日本語学習に費やした時間・労力」を指し、日本就職することをその「回収」として表している。

³⁰ 2019年7月、タイ出身・現代日本学プログラム3年Cさんの聞き取り調査より。

たしさんは実践的な会話から日本語能力を上げることを目的として上記のような活動に参加したが、結果として日本人との関りの楽しさや日本企業のカルチャーが自分自身にフィットすることを感じ、日本就職を決意するに至ったという。

一方で、2 で論じた通り、将来的なキャリア形成を見据えたうえで日本就職を志す外国人留学生も多く存在する。福岡の調査(2015)によると、日本就職を希望する外国人留学生の志望理由として「日本の企業に入り、帰国してもその関連企業で働きたい」が先述の「学んだ語学や専門を生かしたい」と並び一位であった。自らのキャリア形成について、中国出身・北海道大学文学院 2 年の H さんは以下のように語っている。

私はこれから日本で働きますが、何年か働いたら中国で帰るつもりです。正直言って、日本のほうが中国よりも給料がいいんですよ。あと、日本で働いたという経験は(母国に)帰った後に絶対に使えると思っています。経験も増えますし、日本語もきつともっとうまくなるので、中国での選択肢は広がるはずですよ。³¹

以上のような母国と比較した際の給料の高さが動機になるケースは中国出身・北海道大学文学院 2 年の J さんの聞き取り調査からも確認されている。また本調査において聞き取り調査を行った複数の中国人留学生から、「日本で働くこと」が中国社会のヒエラルキーにおいて上位であるとみなされる傾向があることが確認された。近年は中国・台湾からのインバウンド観光客の増加や日本企業と中国との関係の強化から、日本国内で中国語が話せる人材が求められているという背景、さらには中国国内で日本語が話せる人材が求められているという背景もある。日本企業において経験を積み、帰国後にその経験を活かすことのできる企業に転職しキャリアアップを図るという一つの出世コースが確立されていることが示唆される。

ここまで「日本就職の動機」と言っても様々な要素があることを見てきたが、来日後に日本に関する情報に触れる・様々な経験を積むことによって、日本就職を意識しやすくなるという傾向が見られた。実際に本研究で聞き取り調査を行った外国人留学生・元外国人留学生の中でも、留学生として札幌に住む前は「日本は好きだが、就職は意識していなかった」と語る学生が多かった。しかしながら長期間日本に住むことによって日本で人間関係を形成する・日本語能力を伸ばす・日本文化を身をもって体験するうちに、日本に対する親近感や各々の日本就職に対するモチベーションを発見し、日本における就職活動を意識するに至ったということである。

³¹ 2019 年 10 月、中国出身・北海道大学文学院 2 年 H さんの聞き取り調査より。

3-1-2. 企業選択の軸とその形成要因について

日本就職を希望する外国人留学生は、果たしてどのように志望する企業を選択しているのだろうか。詳しくは 3-2 で後述するが、外国人留学生は日本人学生と比較して、就職活動情報収集においてディスアドバンテージがあることが確認されている。母国語として日本語を扱わない外国人留学生にとって溢れんばかりの日本語で記される情報の中から必要なものを取捨選択するのは困難であり、日本人と同条件で就職活動を進めることが容易ではない。限られた情報や手段を用いて就職活動をする外国人留学生は、自らのバックグラウンドや志向をもとに企業選択の軸を形成し行動している。

本調査では、「自分の言語能力を活かすことのできる企業」を志望していると語る外国人留学生が多く存在した。日本就職を志望する外国人留学生の多くは日本語能力に長け、それに加えて自らの母国語、そして英語にも堪能である。3-1 でも触れたが、近年中国語の需要が高まる中で、中国語人材を集中的に採用する企業を中心に就職活動を行う中国人留学生も存在する。中国人観光客が多く訪れる札幌の大手小売店から内定を獲得した中国出身・北海道大学文学院 2 年の J さんは以下のように語っている。

日本人と一緒に就職活動をするなら、日本語能力で負ける自分が不利になることは最初から理解していたので、自分の長所である言語能力を見てくれる会社を探しました。内定をもらった会社では日常的に中国語を話す機会があるので、自分の長所を発揮することができるのがとても嬉しいです。³²

詳しくは 3-4-1 で後述するが、外国人留学生にとって、日本人学生と比較した際の日本語能力の欠如は本人らも自覚するところである。エンジニアとして IT 企業から内定を獲得した L さんのように言語能力以外の専門性を活かした就職活動を行うケースも存在するものの、外国人留学生にとって言語能力以外を自分自身の長所とし、就職活動することは概して難しいという声も挙がった。「自分の言語能力を活かすことのできる企業」は実際に外国人留学生が志望しているという現状がある一方で、日本語を母国語としない外国人留学生にとって極めて現実的な志向であるという解釈も可能である。

また、日本に住む「外国人である」というバックグラウンドをもとに形成された軸をもって企業を選択する外国人留学生も多く存在する。本調査における聞き取り調査では、「架け橋」という言葉が複数の外国人留学生から発された。日本で生活をする外国人留学生が自らの母国と日本を繋ぐ存在になりたいという志向を持つことは極めて自然であると考えられるが、「架け橋」という言葉で意味する内容には個人間で大きな差異が見られた。自らのキャリア観に関して、現在就職活動の準備

³² 2019 年 11 月、中国出身・北海道大学文学院 2 年 J さんの聞き取り調査より。

を進めているベトナム出身・北海道大学現代日本学プログラム 2 年の D さんは以下のように語っている。

私は日本のことが大好きですし、日本でたくさんのチャレンジがしたいです。日本に来てから自分のキャリアについて考えましたが、ベトナムで働くよりもベトナムの外で働きたいという気持ちが強いことがわかりました。なので、日本で日本とベトナムを繋ぐ架け橋のような仕事がしたいですが、最近では将来的に日本と世界中を、ベトナムと世界中を繋ぐような大きい仕事がしたいと思うようになりました。今は日本のグローバル企業に興味があって、一番は商社に興味があります。³³

D さんは母国を離れ日本の大学で教育を受ける中で、母国と日本を繋ぐことに留まらず「世界中を繋ぐ」という極めて高い国際感覚を持つに至ったことが窺える。一方で、中国出身・北海道大学農学院 1 年の B さんは以下のように語っている。

私は日本と中国を繋ぐ架け橋のような存在になりたいと考えていて、一番は旅行業に興味があります。最近では日本に来る中国人観光客が多いですが、いろんな問題も起こっていますよね。日本に来てから中国のことを客観的に考えるようになりましたが、やっぱり自分の国なので、何か（中国のために）したいなと思います。なので、私がその（日本と中国の）間に入って、距離を近づけるようなことがしたいです。³⁴

B さんのケースにおいて、あくまでその視座は「母国と日本の架け橋」になることである。母国を離れて日本で暮らし、冷静に両国の関係を俯瞰するなかで、その摩擦を解消したいと考えるに至ったことが B さんの発言から汲み取れる。一方で D さんの場合は「グローバルに働く」という文脈の中で「架け橋」という言葉を使用していることが窺える。ただ、どちらも共通して「日本で暮らし、客観的に母国を見るようになった」帰結としての志向である。

³³ 2019 年 9 月、ベトナム出身・現代日本学プログラム D さんの聞き取り調査より。

³⁴ 2019 年 9 月、中国出身・北海道大学農学院 1 年 B さんの聞き取り調査より。

3-1-3. 外国人留学生の属性と日本就職の志向の関係性

日本で就職活動をする外国人留学生の中にも様々な属性の者が存在する。ここでは文系・理系の差異と留学プログラム毎の差異が日本就職の志向に与える影響に着目したい。

「文系就職」³⁵「理系就職」³⁶という言葉が一般的に使われるように、日本人学生にとって所属している学部が文系学部か、理系学部かという点は志望企業、職種の決定に影響を与える大きな要素である。日本で就職活動をする外国人留学生の場合はどうだろうか。株式会社ディスコ(2019)によると、日本就職を希望する文系の外国人留学生の志望業界 1 位は「商社(総合)」であり、「ホテル・旅行」「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」と続く。一方で日本就職を希望する理系の外国人留学生の志望業界 1 位は「電子・電気」であり、「自動車・輸送用機器」「医薬品・医療関連・化粧品」と続いており、外国人留学生にとっても文理の差異は日本就職の志向に影響を与える要素であることがわかる。また北海道大学には、工学院に在籍する外国人留学生の日本就職を促進する産官学連携プログラムである「北大フロンティアプログラム」が存在している。このプログラムは在籍する外国人留学生が日本で工学関連分野における就職をすることを目標とし「高度専門能力」「即戦力」「現地対応能力」を育成するプログラム³⁷であり、工学系の外国人理系人材が理系就職をする追い風として機能している。また経済産業省(2019)は「IT 人材需給に関する調査」において、日本では IT 人材の供給が需要に追い付いておらず、その傾向が 2030 年まで続く試算であることを報告している。実際に筆者が聞き取り調査を行った L さんは北海道大学在籍時に工学院の情報工学研究室に所属し、エンジニア職での内定を獲得した。L さんは元々エンジニア職での就職を希望しており、専門性をもつ理系学生がその専門性を活かすことのできる職種を志望し、成功した例の一つである。

一方で工学系以外の理系学生の日本就職に対する志向はどうだろうか。中国出身・北海道大学農学院 2 年の E さんは以下のように語っている。

私は農学部の学生ですが、大学で学んだ専門知識を使って日本で働きたいという気持ちはなかったです。文系の学生みたいな企業ばかり受けました。でも全部うまくいかなくて、自分の専門性が使えそうな化学系のメーカーにも興味を持ち始めました。でもできれば文系総合職³⁸みたいなポジションで働きたいです。

³⁵ 「総合職」「事務職」での就職等、文系学生の多くが就職する職種で就職すること。

³⁶ 「専門職」「研究職」での就職等、理系学生の多くが就職する職種で就職すること。

³⁷ 「留学生支援プロジェクト・北海道大学フロンティアプログラム」ホームページより。

³⁸ 総合職は、総合的な能力を要する基幹的業務に従事する、企業の正社員の職種を指す。E さんは「総合職は文系学生のためのポジションである」という考えから以上のような発言をしたと考えられる。

以上の発言から、Eさんが文理の区別に捕らわれず就職活動を行っていたことが窺える。さらに本研究で聞き取り調査を行った北海道大学農学院のBさんとIさんの2名も専門性を活かした日本就職の困難さについて言及し、本人たちの志望職種が総合職であること(Iさんは実際に総合職で日本企業から内定獲得済み)が確認された。また文系学部在籍する外国人留学生在工学系などの理系職種を希望する事例は確認されていない。本調査において聞き取り調査を行った文系学生も日本という国や国際関係に興味があるというケースのみで、必然的にその志望業界も「文系就職」にあてはまるものであった。3-1-1、3-1-2で論じたように、日本で就職活動をしている、または検討している外国人留学生在自らの専門性以外の要素に日本就職の動機を見つけているケースは非常に多い。上述の株式会社ディスコの調査(2019)では文系学生と理系学生で志望業界が大きく異なることが報告されたが、専門性を活かす就職を前提とした工学系の外国人留学生在に「理系就職」の傾向が見られる一方で、外国人留学生在の実際の志向は概して「文系就職」であることが本調査では確認された。

次に留学プログラム毎の差異について論じたい。まず上述の通り、北海道大学キャリアセンターの寺嶋様は北海道大学で就職活動をする外国人留学生在のほとんどが大学院留学の外国人留学生在あるとおっしゃっている。大学院留学の外国人留学生在は卒業後にそのまま就職をすることが可能であり、日本において就職活動を行うことが容易である。さらに、上述の通り大学院留学の外国人留学生在は、中国人学生が大多数であることが確認されている。三菱UFJリサーチ&コンサルティング(2018)の調査では、2016年の「国籍別の在留資格『留学』から就労可能な在留資格への変更許可数」において、2位のベトナムに4倍以上の差をつけて中国が1位になっており、概して大学院に在籍する外国人留学生在の日本就職志望度が高いことがわかる。そのため大学院留学の外国人留学生在の志向について検討する際は、マジョリティーを占める中国人学生内でのトレンドについて注意を払う必要がある。

一方で中国出身・北海道大学交換留學生(HUSTEPプログラム)のKさんはプログラム在籍中に日本就職を検討することの困難さを訴えた。Kさんは自身の日本就職に対する考えとして以下のように語っている。

もともと日本は大好きでしたが、札幌に来てからもっと好きになりました。もちろん日本で働きたい気持ちもあります。でも私はこの留学が終わった後、中国の大学を卒業しなければならないので、日本で就職できるとしても数年後になります。日本語もまだ話せないなので、日本就職を本気で考えるのは正直難しいです。³⁹

交換留学においてはプログラムの特性上、外国人留学生在は海外大学に在籍したままの状態日本で留学生生活を送ることになる。プログラム終了後は派遣元の大学を卒業する必要がある

³⁹ 2019年11月、中国出身・北海道大学交換留學生(HUSTEPプログラム)Kさんの聞き取り調査より。(聞き取り調査は英語で行われたため筆者意識)

り、学部生の交換留学であった場合は大学院に進学するケースも多い。Kさんのケースでは日本就職を志望するものの、卒業年の関係と現時点における日本語能力の欠如からその真剣度が低いことが示唆される。キャリアバンク株式会社の冨樫様は、同社の外国人採用サポート事業において大学院留学の外国人留学生がサービスの利用者として大多数であるとおっしゃっており、やはり交換留学生と大学院留学の外国人留学生では日本就職の志望度に大きな開きがあることが明らかになった。

3-2. 就職活動に関する情報収集について

3-2-1. 第一歩として機能する「セミナー」について

外国人留学生は就職活動をする際に、どのような方法で就職活動に関連する情報を収集するのだろうか。日本就職に関連する情報はそのほとんどが日本語でしかアクセスできない現状があり、日本語を母語としない外国人留学生はディスアドバンテージがあるといえる。しかしながら本調査では日本語で必要な情報にアクセスにすることに難しさを覚える外国人留学生、日本における就職活動の始め方を理解していない外国人留学生を対象としたセミナーの存在が確認された。こういったセミナーの運営母体は学内のキャリアセンターや、民間の人材会社である。文部科学省(2018)は独自調査「外国人留学生の就職促進について」において、2009年から2017年まで、卒業後に日本就職をする外国人留学生の数が右肩上がり増加していることを報告しており、「日本で就職活動をする新卒外国人留学生」の市場が年々大きくなっていることが窺える。キャリアバンク株式会社は厚生労働省の委託を受けて外国人留学生採用サポート事業を行う等「日本で就職活動をする新卒外国人留学生」の市場に事業として参入しており、実際に外国人留学生のみを対象とした合同企業見学説明会やバスツアーを開催していることをキャリアバンク株式会社の冨樫様がおっしゃっていた。北海道大学キャリアセンターの寺嶋様も日本就職を目指す外国人留学生の増加を受け、外国人留学生を対象にした5回に及ぶセミナーを就職活動開始時期に合わせて開催する経緯になったとおっしゃっていた。このようなセミナーは学内開催、学外開催に関わらず大学内で広く広報されている点や友人紹介でその存在が広まりやすいという点から、外国人留学生の参加率は概して高い。開催する人材会社が外国人留学生向けの就職ポータルサイトを運営しているケースもあり、オンライン上で集客をすることも可能である。また日本人学生向けではなく外国人留学生向けのセミナーとなると、そのコンテンツも日本人学生向けのセミナーと大きく異なる。東京で某大手人材会社の運営で2019年1月に開催された、これから就職活動を開始する外国人留学生向けのセミナーに参加した中国出身・北海道大学農学院2年のEさんは以下のように語っている。

1 月はまだまだ日本での就職活動のやり方はほとんどわかっていなかったし、どうやって就活やり方を調べればいいのかもわからなかったのもので、偶然知ったセミナーに参加してみました。企業の選び方とか、就職活動の進め方とか、注意することとか、本当に詳しく教えてくれたので、本当に参加してよかったと思います。あのタイミングから「私は就職活動をしている」と他の人に言うようになりました。⁴⁰

E さんの発言から、「日本で就職活動をしたいけど何から始めればいいのかわからない」という悩みを持つ外国人留学生に寄り添う内容であったことが窺える。E さんはセミナー終了時に開催企業が運営する就職ポータルサイトの登録を勧められ、そのままその就職サイトに登録、セミナーで得たアドバイスを基に同就職サイト上で志望企業を探すようになったという。聞き取り調査を行ったその他の外国人留学生も学内・学外で開催される外国人就職活動生向けセミナーから、外国人留学生を対象を絞らない就職活動関連セミナーやインターンシップ⁴¹まで参加経験があり、そういったセミナー・イベントから就職活動に関連する情報や日本企業の情報を集めていることが判明した。

3-2-2. 「タテ」「ヨコ」のつながりを通じた情報収集

日本人学生の就職活動における情報収集方法に関して、日本出身・北海道大学農学院 1 年の M さんは以下のように語っている。

私は大学院生なので、同期にはもう働いている人や就職活動を終わったばかりの 20 卒⁴²の人が沢山います。就職活動を経験した先輩もいるので、そういう感じで人伝いで情報収集を行うことができます。あと就職活動をしていたら 21 卒の仲間が沢山できるので、やっぱり情報共有をできるコミュニティを作ることができますね。なかなか知ることのできない情報も人伝いで知ることができるので、沢山の人の話を聞くようにしています。⁴³

当然のことではあるが、日本で就職活動をする日本人学生の数は外国人留学生のそれとは比較にならない。日本人学生のほうが就職活動経験のある人間とのコネクションを多く持っていることは容易に想像される一方で、外国人留学生の人伝いの情報収集の実態はどのようなもの

⁴⁰ 2019 年 9 月、中国出身・北海道大学農学院 2 年 E さんの聞き取り調査より。

⁴¹ 就労体験のこと。

⁴² 2020 年に大学を卒業する世代を指す言葉。M さんは 2021 年に大学を卒業する 21 卒に当たる。

⁴³ 2019 年 12 月、日本出身・北海道大学農学院 1 年 M さんの聞き取り調査より。

だろうか。インド出身・北海道大学現代日本学プログラム3年のAさんはその困難さと自分の相対的優位性について以下のように言及した。

現プロの同期でも日本で就職したいと思っている人はいるけど、そもそもみんなあんまり(就職活動関連情報を)知らないんで、あんまり参考にならないですね。みんな手探りでやってる感じです。(中略)正直言って私は恵まれているほうだなとは感じますよね。現プロは数が多いので、日本企業から内定をもらった先輩もいるし今からめっちゃくちゃ行動している後輩もいるし。私自身がもっと真剣になれば、もっと色んなことを教えてもらえると思います。⁴⁴

詳しくは後述するが、現代日本学プログラムは2019年で6年目を迎えるプログラムであるため「先輩」「後輩」といった「タテ」のつながりも存在すれば、同期が20人(退学者も確認されているため実際はこの人数より少ないが)いるプログラムであるため「ヨコ」のつながりも存在する。依然日本人学生のコミュニティの規模とは比較にならないが、上述の通り現代日本学プログラムが日本語教育に特化したグローバル人材育成プログラムであることもあり、「情報共有の場」として機能するつながりが存在していることが窺える。一方で、その他プログラムの外国人留学生は人伝いの就職活動関連情報にアクセスしづらい現状があることが確認された。大学院留学をしている外国人留学生のケースだと、情報収集ができるつながりを、所属する研究室以外に形成しづらいという問題を抱えている。大学院留学の外国人留学生の主な在籍期間は2年であり、その期間内で就職活動、自らの研究、論文の執筆をしなければならない。その多忙さから、そもそも所属研究室以外で人間関係を形成すること自体が難しいことが複数の外国人留学生から報告された。アルバイト先に日本就職を志望する中国人留学生がおり、積極的な情報交換を行う関係を形成をしているBさんのような個々の諸活動から偶然「タテ」「ヨコ」のつながりを形成するケースも散見された。しかしながらその全てが傾向と呼ぶには至らないものであった。中国出身・北海道大学農学院2年のIさんは以下のように語っている。

就職活動の情報はほとんど研究室の人に聞いていました。同期には就職活動をする日本人も中国人留学生もいたので、いろいろ聞くことができました。でもそれ以外聞く人がいなかったのので、どんな会社を受ければいいのか全然わかりませんでした。同じ研究室の人だけで(情報を)シェアしていたので、聞ける情報に偏りがあることも少し不安でしたね。⁴⁵

以上のようにある程度在籍学生の数がある研究室であれば研究室内での「タテ」「ヨコ」のつながりから情報収集は可能であるが、「情報の偏り」という問題は常につきまとう。

⁴⁴ 2019年9月、インド出身・北海道大学現代日本学プログラム3年Aさんの聞き取り調査より。

⁴⁵ 2019年12月、中国出身・北海道大学農学院2年Iさんの聞き取り調査より。

3-2-3. 外国人留学生の就職ポータルサイト利用

3-1 で触れたように、人材会社が運営する就職ポータルサイトを利用する外国人留学生が多く存在する。株式会社ディスコ(2019)の「外国人留学生の就職活動状況調査」の「外国人留学生の就職活動の情報源(複数回答可)」の質問において、1 位が「留学生向け就職サイト(73.1%)」、2 位が「日本国内学生向け就職サイト(60.6%)」と報告された。就職ポータルサイトの特徴はサイト上に複数の企業情報が掲載されており、それらをキーワードや特徴から絞り込みが可能な点にある。またサイト上で、企業への応募が可能である。こういったポータルサイトの運営会社が自社で開催するセミナーやイベントの際にポータルサイトへの登録も促していることが上述の E さんの発言から確認されている。実際にそういったポータルサイトの存在の認知は外国人留学生の間でも広がっており、本調査においても K さん以外の全員が具体的なサービス名とともに認知をしていることが確認された。株式会社マイナビは就職ポータルサイト「マイナビ」を運営する会社であるが、日本で就職活動をする外国人留学生向けに特設サイトを設けている。同サイトでは外国人留学生がどのように就職活動の準備をすればよいかレクチャーする記事、内定者インタビュー、実際の外国人留学生向け求人まで幅広いコンテンツを用意している。こうした利便性やコンテンツの充実が外国人留学生の就職ポータルサイトの利用率を高めていると考えられる。また、中国出身・北海道大学農学院 2 年の E さんは自身の就職ポータルサイト利用法について以下のように語っている。

やっぱり会社を探したいときにそういうサイトを使うんですけど、留学生の自分でも働くことができそうな会社を探したいじゃないですか。サイト上で探すときに、言語能力とか、留学生を採用しているかどうかでフィルターをかけることができ、自分でも応募できそうな会社を探すことができました。サイトで探せる会社の数も多いので、行きたい会社が決まっていなかった自分にとってはすごく良かったです。⁴⁶

新日本有限責任監査法人『平成 26 年度産業経済研究委託事業「外国人留学生の就職及び定着状況に関する調査」報告書』(2015)によると、アンケートを行った外国人留学生のうち最も多い 38.5%が「就職活動中困ったこと」の項目において、「外国人留学生向けの求人が少ない」ことを指摘した。日本で就職活動をする中で自身に会う会社や求人を探す外国人留学生にとって、目的に合わせて会社を検索することが可能である就職ポータルサイトは貴重な存在である。

⁴⁶ 2019 年 9 月、中国出身・北海道大学農学院 2 年 E さんの聞き取り調査より。

3-3. 就職活動と留学生コミュニティ

3-3-1. 外国人留学生を支える広く固いコミュニティ-現代日本学プログラムを事例に

3-2-2 で論じたように、北海道大学現代日本学プログラムには情報共有の場として機能するコミュニティが存在している。ここでは、情報共有以上の意義を持つこのコミュニティについて論じる。上述の通り現代日本学プログラムの学生は秋に札幌を訪れ、正式入学となる4月まで同期全員で日本語教育を受けることになる。同期が20人しか存在しないことや同じ時間を共有する時間が長いことなどから、現代日本学プログラムの同期学生同士の「仲間意識」は非常に強い。正式入学後に現代日本学プログラムの学生のみが集まる機会は減るが、それでも尚同プログラムの学生同士で長い時間を共に過ごす傾向があることが報告されている。本調査で聞き取り調査を行った4名の現代日本学プログラムの学生の中で、同プログラムの同期学生とルームシェアをしている事例が2件確認されており、その絆の固さを物語っている。現代日本学プログラムの「ヨコ」のコミュニティについては確認したが、「タテ」の関係性はどのようなものか。ベトナム出身・現代日本学プログラム2年のDさんは以下のように語っている。

私は札幌に来るまでは日本で働こうとは考えていませんでした。でも同じ現プロの先輩の中に日本企業から内定を貰っているベトナム出身の人がいて、しかも自分が少し興味のある業界だったので、たくさん話を聞きました。何回も私のために時間を作ってくれました。話を聞いているうちにモチベーションが高くなってきて、「私も日本の大企業で働くというチャレンジがしたい」と考えるようになりました。⁴⁷

Dさんは同じ現代日本学プログラム内の先輩の話に刺激を受け、日本就職を志すに至った。筆者は本調査で、現代日本学プログラムの学生同士が会話をする中に参加する機会を得たことがある。学生らは皆自分の先輩の進路、日本就職をする場合であればその内定先も把握しており、2019年10月入学の同プログラムの学生がどのような人達か、といった内容で話を弾ませていた。現代日本学プログラムは学年を越えた全在籍学生が入っているFacebook⁴⁸のグループが存在しており、そこでは気軽に学生同士が繋がることや、自らが携わる課外活動の宣伝をすることができるという。大学側が提供する機会として現代日本学プログラムの異なる学年の学生が交流する機会は少ない。しかしながら、「ヨコ」のコミュニティにおいて発見された「仲間意識」が「タテ」にも広がっていると考えられる。1-3-2で述べたように、現代日本学プログラムの学生は卒業後にそれぞれ異なる進路を目指す。日本就職を志す学生同士はその仲間意識から、情報共有を越えて互いに励

⁴⁷ 2019年9月、ベトナム出身・現代日本学プログラム2年Dさんの聞き取り調査より。

⁴⁸ Facebook, Inc.が運営する世界最大のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)。

まし合いながら就職活動準備や実際の就職活動を行っている。Dさんの発言からは「同じプログラムに所属している」という仲間意識から後輩に積極的な情報共有をしているDさんの先輩の様子が窺える。タイ出身・現代日本学プログラム3年のCさんは以下のように語っており、日本で就職活動をする在籍学生にとっての「現代日本学プログラム」というコミュニティの価値を物語っている。

現プロ生は本当に頑張っている人が多いと思います。とても厳しい課程をやりながら、大学院に行くためとか、日本で働くために頑張っている人が多いです。そういう人たちが沢山いるので、私もいつもモチベーションをもらいながら頑張っています。(中略)この前東京までインターンシップに行ったんですけど、他の現プロ生が応援してくれました。本当に、頑張ろうって思いました。⁴⁹

3-3-2. 外国人留学生の孤独

外国人留学生は、母国を離れ日本就職を果たすために日本で就職活動をする、このことをどのように捉えているのだろうか。日本人学生は個人差こそあるものの、多様な人間とコミュニティを形成しながら就職活動を行うことが報告されている。3-2-2で取り上げた日本出身のMさんの発言からも、日本人就職活動生の母数や得ることのできる機会の多さに起因するコミュニティ形成の容易さが窺える。またMさんは、コミュニティが持つ意義が情報共有に留まらないことを以下のように述べている。

色んな人から話を聞いたり他の人の就職活動の様子を見るのはもちろん参考になりますが、それだけじゃないんです。「選考通ったー!」とか、「ES⁵⁰通ったー!」とか、あとダメだった時も「落ちちゃったー」と報告できる相手がいるって本当に心強いんです。今は就活のことをなんでも相談できる友達2人とLINE⁵¹グループがあって、いつも励ましてくれるので、心の支えになっていますね。

就職活動生にとって大学3年時(大学院生の場合大学院1年時)の夏のインターンシップの参加が一般化している現状、就職活動は長期間に及ぶ場合が多い。学生には多大な精神的負荷がかかることが予測される中、精神的なサポートとして機能するコミュニティの存在意義は大きい。これは上述の現代日本学プログラムにおけるコミュニティの例からも読み取れることである。

一方で、日本でコミュニティを持たず孤独に就職活動を進める外国人留学生も存在している。ドイツ出身・北海道大学元情報工学研究室特別研究生のLさんは以下のように語っている。

⁴⁹ 2019年7月、タイ出身・北海道大学現代日本学プログラム3年の聞き取り調査より。

⁵⁰ エントリーシートのこと。書類選考の課題として提出を求められる採用書類を指す。

⁵¹ LINE株式会社が開発し提供するソーシャルネットワーキングシステム(SNS)。

私は周りに就活する外国人がいなかったですし、日本人の学生とは全然違う就活だったので、ずっと一人でした。まず、他の留学生と仲良くしようとそんなに思っていなかったかな。それでも自分でどんな会社に働きたいかはわかっていたので、困ることはなかったです。結局行きたいと思っていた会社から内定ももらうことができました。⁵²

Lさんは一人で就職活動を行うことを否定的な意見を持っていなかったどころか、自ら進んで孤独を選び、自分のやり方で就職活動を進めていたことが窺える。一方で、中国出身・北海道大学農学院2年のEさんは以下のように語っている。

同じ研究室に就活をしている中国人留学生は1人いましたが、あんまり話すことはなかったですね。就活をしていても全然他の外国人留学生に会わないですし、日本人とは仲良くなりづらいので、ずっとひとりでした。寂しいという感じはしないんですが、話せる人が欲しいと思う時はありました。自分が書いたESも誰かに見て欲しかったです。⁵³

外国人留学生は就職活動を通して日本人学生と出会う機会こそ多くあるものの、そこから深い会話が生まれることはないというEさんは語った。そもそも日本で就職活動を行う外国人留学生の母数が少ない中で、日本人学生との精神的な壁が存在することが、外国人留学生の孤独を生み出す。人間関係が自身の在籍する研究室内に集中する傾向が見られる大学院留学の外国人留学生には特にこの傾向が顕著に見られると考えられる。

3-4. 就職活動の困難

3-4-1. 日本語に起因する就職活動の苦戦

株式会社ディスコ(2019)の「外国人留学生の就職活動状況」調査によると、調査を行った外国人留学生のうち51.0%が「日本で就職する際に不安に感じる」として「自分の日本語が通じるか」を挙げた。外国人留学生向けの求人も存在することは事実ではあるが、日本で就職活動を行う以上は日本人学生と同様の日本語力を求められる。日常生活には困らない日本語能力⁵⁴を持っている

⁵² 2019年9月、ドイツ出身・北海道大学元情報工学研究室特別研究生Lさんの聞き取り調査より。

⁵³ 2019年9月、中国出身・北海道大学農学院2年Eさんの聞き取り調査より。

⁵⁴ 日本語能力試験(JLPT)のN2レベルが「日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる」レベルとされて

る外国人留学生であっても、就職活動で求められるビジネス日本語や敬語表現に苦戦する、書類選考時に求められる日本語スキルを持っていない等のケースも散見される。まず、日本語を使用した情報収集習慣のない外国人留学生が、いざ就職活動を始める際に日本語で何を検索すればいいかわからないという問題が存在する。

私は就活を始めるのは遅いほうでしたが、始めたときは本当に何を調べればいいのかもわからず、日本語の情報を集めるのも苦手でした。(中国出身の)友達にたくさん話を聞いてなんとか頑張っていました。⁵⁵

またその後のステップの中では、複数の外国人留学生からエントリーシート作成の難しさについて言及があった。自身の志向や長所等を決められた文字数において表現することを求めるエントリーシートであるが、外国人留学生にとって完璧に文法上正しい日本語表現を使うことが難しいことが指摘されていた。

面接であれば会話なので少しのミスは大丈夫かなって思いますが、エントリーシートは書いて提出するので、ミスできないですね。間違わないように書いて、日本人の友達にチェックしてもらいました。⁵⁶

中国出身・北海道大学農学院 2 年の I さんは自身のエントリーシート作成について以上のように振り返った。このようにエントリーシート作成に関しては難しさに対する指摘がある一方で、日本人の友人にチェックしてもらおう等の方法をとることで対策をとることは可能である。さらに書類選考通過後、もしくは書類選考時に多くの企業が受験者に課す Web テスト⁵⁷の存在が、外国人留学生にとって大きいディスアドバンテージであるという声も挙がった。ベトナム出身・北海道大学現代日本学プログラム 2 年の D さんは Web テストの準備に関して以下のように語っている。

Web テストが不安で、今から準備しているんですよ。SPI⁵⁸とか、文章読むパートもあるじゃないですか。日本語を話すことはできても速く読むことには慣れていないんです。だから今から参考書

おり、日本語能力試験で N2 以上のレベルをもつ外国人留学生の日本語力を「日常生活は困らない日本語能力」とした。

⁵⁵ 2019 年 10 月、中国出身・北海道大学文学院 2 年 H さんの聞き取り調査より。

⁵⁶ 2019 年 10 月、中国出身・北海道大学農学院 2 年 I さんの聞き取り調査より。

⁵⁷ 企業が人事選考の際に行う採用テスト。受験者が自身のパソコンで行うもの、指定の会場にて行うもの 2 種類が存在する。

⁵⁸ Web テスト方式である適性検査。性格検査、基礎能力検査、英語検査、構造的把握力検査の 4 パートが存在する。

を買って勉強しています。日本語の表現の問題もあるので、その勉強も沢山しないといけないですよ。(中略)日本人よりも大変だなんて本当に思いますよ。

SPIを代表とする多くのWebテストには「基礎能力検査」という名前において、受験者の日本語能力を問うパートがある。基礎的な熟語の意味を問う問題から長文読解の問題まで様々な形式の問題があり⁵⁹、日本語能力において日本人学生に劣る外国人留学生にとって困難であるという。Dさんのように実際の就職活動を開始する前からWebテスト対策を行っている・行っていたと話す外国人留学生は他にもおり、その準備には日本人学生よりも多くの時間を割く必要があると考えられる。

また本調査では面接試験における日本語力に対する困難を外国人留学生が感じているという仮説が建てられていたが、多くは確認されなかった。「もちろん不安はある(あった)が、自信はある(あった)。」という趣旨の発言している外国人留学生がほとんどで、日本語における会話能力に自信を感じさせていた。日本語での会話能力に対する自己信頼感が、外国人留学生が日本における就職活動を継続させる大きなモチベーションとなっていることが示唆される。

3-4-2. 外国人留学生が「外国人」であること

内閣府政策統括官の「企業の外国人雇用の分析」(2019)によると、新卒留学生は海外展開を実施・計画している企業や、人手不足感が強い企業で採用意欲が高い傾向がみられている。近年日本が抱える労働不足問題から外国人留学生の採用決定数も増加傾向を見せている。一方で北海道企業に限ると、その外国人材に対する興味は概して低いと言える。札幌商工会議所の安井様は以下のように語っている。

外国人材に対する期待が高まっているのは事実ですが、まだ外国人材を採用することに積極的ではない会社が沢山存在するのも事実です。外国人採用といっても技能実習とか特定技能を前提にしている会社が多いので、留学生の方々を高度外国人材として採用しようと考えている会社はあまり多くないのかもしれないですね。⁶⁰

筆者がインターンシップ生としてリージョンズ株式会社に参与観察をした際も、多くの北海道企業が採用戦略として新卒採用を日本人学生に絞っていることも確認された。北海道企業は東京本社の企業と比較し高度外国人材との接点が多くなく、日本語レベルや入社後の受け入れ態勢に不安を抱える企業が多いと考えられる。この傾向はその他地方エリアに本社をもつ企業でも確認さ

⁵⁹ 「株式会社ワンキャリア」ホームページより。

⁶⁰ 2019年10月、札幌商工会議所安井様の聞き取り調査より。

れている。株式会社ディスコの「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査」(2018)ではアンケートに回答のあった企業の中で外国人社員の受け入れと採用活動の課題として「社員の受け入れ態勢が未整備」「求める日本語コミュニケーション能力を有する人材が少ない」を指摘する企業数が最も多かったことから、外国人留学生は日本語能力の良し悪しに関わらず、「外国人」であることで少なからずのバイアスを持たれている。東京を中心に就職活動を進める中国出身・北海道大学・法学院 1 年の O さんは以下のように語っている。

自分が中国人だからといって差別を受けていると感じたことはありません。私にとっていつも大変なことは日本人の学生の日本語レベルについていくことなので。どちらかというと中国人であるということで興味を持ってもらえることもあるので、メリットのほうがあると感じています。⁶¹

以上のように自分自身が「外国人」であることをむしろ肯定的に捉える意見も存在する。東京本社の企業を志望する外国人留学生が最も多いことから、東京を本社とする企業に「外国人慣れ」が生まれ、東京では就職活動中の外国人留学生へのバイアスが消失しつつあることも考えられるだろう。しかしながら外国人留学生にとって、企業が持つ外国人人材に対する潜在的バイアスを読み取ることは極めて困難であることが予測され、外国人留学生への聞き取り調査からはなかなか表出しづらい問題であると言える。

3-5. 札幌と日本就職

3-5-1. 「札幌就職・札幌近郊就職」の位置づけについて

札幌で就職活動をする外国人留学生は、「札幌就職・札幌近郊就職」をどのように捉えているのか。本研究で聞き取り調査を行った外国人留学生のうち既に日本企業の内定を持っている 4 名は、3 人が札幌就職、1 人が東京就職であった。就職先を札幌にした理由としては、以下のような声が挙がった。

パートナーが札幌にいたので札幌を選びました。(I さん)⁶²

就活を開始したのが遅かったので東京に行く暇が全然なく、札幌で就活をするしかありませんでした。(G さん)⁶³

⁶¹ 2019 年 12 月、中国出身・北海道大学法学院 1 年 O さんの聞き取り調査より。

⁶² 2019 年 10 月、中国出身・北海道大学農学院 2 年 I さんの聞き取り調査より。

⁶³ 2019 年 10 月、中国出身・北海道大学文学院 2 年 G さんの聞き取り調査より。

私の出身地は中国の中心地なのでペースが速すぎます。札幌はもっとペースが遅く、待ちのサイズも便利なので札幌にしようと思いました。(Jさん)⁶⁴

一方で東京の企業の内定を持っているドイツ出身・北海道大学元情報工学研究室特別研究生のLさんは以下のように語っている。

自分が札幌のベンチャー企業でインターンをしていたこともあって、最初に就職活動を開始したときは「札幌 ベンチャー企業」というワードで会社を探していました。でもあんまりいい会社が見つからなかったですし、趣味の活動が東京のほうができるので、東京で就職活動することに決めました。⁶⁵

4人の就職地域の決定基準を見ると、全員が異なる動機のもと、意思決定をなしている。しかしながら札幌就職・札幌近郊就職にネガティブな気持ちを持っている者はいなかった。Lさんのケースでも就職活動開始当初は札幌就職に対して意欲を見せていたが、公私共により機会の多い東京を選んだことがわかる。株式会社 KITABA(2015)の「外国人留学生誘致検討調査業務事業報告書」では、外国人留学生が札幌での長期滞在を経ると、札幌に対する好印象を醸成することが報告された。そのポイントは、同調査で比較された名古屋と福岡のそれよりも高いことも報告された。この長期滞在後の札幌に対する好印象の醸成が札幌就職に対する意欲を形成していると考えられる。現在就職活動中の外国人留学生も、具体的な就業希望地域は決まっていながら、Oさん以外の全員が「就職するなら東京か札幌がいい」と述べていた。一方の中国出身・北海道大学・法学院1年のOさんは以下のように語っている。

札幌で就職することは考えていませんね。私は日本でめちゃくちゃ働きたくて、大手企業に就職したいので、自分の将来のキャリアを考えると、東京に行くしかありません。⁶⁶

Oさんのように自身のキャリア形成に高い優先度を置いている外国人留学生は東京を選ぶだけでなく、同じ傾向はキャリア形成に一番の優先順位を置く日本人就職活動生にも見られる。

⁶⁴ 2019年11月、中国出身・北海道大学文学院2年Jさんの聞き取り調査より。

⁶⁵ 2019年11月、ドイツ出身・北海道大学元情報工学研究室特別研究生Lさんの聞き取り調査より。

⁶⁶ 2019年12月、中国出身・北海道大学法学院1年Oさんの聞き取り調査より。

3-5-2. 就職活動拠点としての札幌

札幌就職・札幌近郊就職を志す外国人留学生は札幌在住であることがむしろ強みであるが、札幌外を中心に就職活動を行う外国人留学生はそれが大きなディスアドバンテージとなることが予測される。1-1 で取り上げた M さんの発言から、日本人学生にとっても札幌を拠点とすることが時に大きなディスアドバンテージとなることが確認されている。中国出身・北海道大学法学院 1 年の O さんは東京を中心に就職活動を行う辛さに関して以下のように語っている。

インターンシップで東京に毎回毎回行くのは大変ですよ。お金は企業からもらえることが多いのであまり困らないですけど、時間がかかってしまいます。大きいイベントやチャンスは東京に集中しているので、札幌にももっとあればいいなと思います。⁶⁷

以上のようなディスアドバンテージは外国人留学生に限られた問題ではなく、東京を中心に就職活動をする地方大学の日本人学生が同じ問題を抱えていることは度々議論されている。札幌を就職活動の拠点とすることが就職活動中の外国人留学生に与える影響は、日本人学生にとってのそれと極めて酷似していると言ってよいだろう。

⁶⁷ 2019 年 12 月、中国出身・北海道大学法学院 1 年 O さんの聞き取り調査より

4. 考察

4-1. 変化する就職活動

これまで、先行研究、14 人の外国人留学生の聞き取り調査、関連企業・組織の聞き取り調査から判明した、または示唆されたことについて述べてきた。

外国人留学生の日本における就職活動は日本語能力や各々のバックグラウンド、「外国人であること」に起因する制約等から日本人学生と全く同じ就職活動をすることは難しく、その傾向は外国人留学生の日本における就職活動に関する調査が行われ始めた初期から、2019 年 12 月現在まで変わらない。一方で、北海道大学キャリアセンターの寺嶋様が外国人留学生の就職活動の在り方の変化について以下のように語っている。

前まではね、留学生で日本で就活しようなんて子はすごく少なかったから、キャリアセンターに来てくれる子は丁寧にアドバイスしていたんです。でも最近は(日本で就職活動をする外国人留学生は)すごく増えてきたし、みんな自分たちで調べて就活やるんですよ。だからもう、留学生だからといって特別なことをしてあげる必要はないのかもしれないですね。⁶⁸

日本で就職活動をする外国人留学生の母数の増加によって、日本就職を希望する外国人留学生が関連情報に触れる機会やそれをターゲットにしたサービスやビジネスが増加しているのは事実である。Oさんは日本で就職活動をする中国人向けのサービスに加入しており、そこではこれまでに日本で就職活動を経験した中国人、現在日本で就労している中国人の体験談に中国語でアクセスできるという。また研究室や留学プログラム内で、「タテ」のつながりから情報を取得し、それが「ヨコ」に共有されていることも本調査では確認されている。このように、「外国人留学生の日本における就職活動のノウハウ」が外国人留学生という大きいコミュニティの中で年々蓄積されているのである。以前は外国人留学生が少ない情報の中でハンディを抱えながら就職活動を行っていたため、大学を始めとする周囲の理解や協力が求められていた。企業の「外国人慣れ」もなく、採用においても日本人学生と外国人留学生を切り離して考えていたことが考えられる。外国人留学生が「ノウハウ」を手にした近年は、その開始から終了まで、傾向として日本人学生の就職活動と外国人留学生の就職活動のプロセスが類似するようになったことが示唆される。一方で大学院留学の外国人留学生の孤独も確認されており、現状ではコミュニティに属さない外国人留学生にノウハウを共有することは困難である。本稿で一事例として紹介した現代日本学プログラムのコミュニティのような形で、孤独に就職活動を行う外国人留学生を巻き込むコミュニティの誕生が望まれている。また Oさんは就職活動中に出会った複数の会社から、「外国人だからとって特別な採用基準を設けるのではなく、日本人と同じ基準において選考を行

⁶⁸ 2019 年 10 月、北海道大学キャリアセンターの寺嶋様の聞き取り調査より。

う」という趣旨の発言をされたと語っており、企業も日本人学生と外国人留学生区別しない採用方針を持っていることがわかる。

4-2. 今後の展望

日本に対する国際的な関心の高まりや政府の積極的な誘致政策から、日本における外国人留学生の総数は今後も伸び続けると考えられる。外国人留学生の日本企業への移行を図る取り組みもなされており、日本就職を希望する外国人留学生の総数も増加することが予想される。近年は日本企業の長時間労働等の劣悪な労働環境が度々指摘されたため、その影響から労働環境は改善の兆しを見せている。これもまた外国人人材が日本就職を検討する際に追い風となることであろう。

4-1 で触れている通り、近年は日本における日本人学生の就職活動と外国人留学生の就職活動の類似化傾向が示唆されている。日本において就職活動をする外国人留学生の増加とそれに伴う市場規模の拡大が彼ら彼女らに情報収集・共有、コミュニティ形成の機会を与え、日本における就職活動に必要な「ノウハウ」の蓄積と共有を容易にした。今後もこの傾向は続くと思われ、日本人学生と外国人留学生の間に存在していたハンディが小さくなっていく。いわば、外国人留学生の「就職活動力」⁶⁹の更なる向上が予想されている。しかしながら、日本人学生と同等の就職活動力を保持して就職活動を行う外国人留学生が増加する一方で、日本語能力の課題は残り続ける。ビジネス日本語習得の機会は増加すると思われるが、日本人学生と同様の日本語能力を駆使して就職活動を進めることは困難である。

企業の「外国人慣れ」や時代の潮流、就職活動力の向上があり、概して外国人留学生の日本における就職活動には追い風が吹いていると言っていいたいだろう。しかしながら、3-4-2 で論じたように、外国人留学生に対してバイアスを持っている、採用対象として見ていない企業が北海道などの地方エリアに存在することも事実である。少なからず残るハンディをどのように埋めるか、「外国人である」という事実をどのように自身の強みに変えるかが、今後の課題である。今日の日本のグローバル化により変化する企業の人材需要に外国人留学生がいち早く反応し、日本人では提供ができない価値を自身自身で発見することが求められている。

⁶⁹ 筆者定義の、就職活動において情報を主体的に収集する能力、志望企業の選考を通過し内定を獲得する能力など就職活動を行う際に求められる総合的な能力を指す。

5. おわりに-「外国人留学生の就職活動」から多様性について考える-

筆者である私は本調査を通して、多くの日本就職を希望する外国人留学生、既に日本就職が決定している外国人留学生に出会った。出会った外国人留学生のほとんどが日本語に堪能で、思いの理由から日本で働くことに対して想いをもっている。彼ら彼女らは日本文化に慣れ親しみ、母国語ではない日本語を使って日本において就職活動に挑戦している、あるいはしようとしているのである。正直なところ私自身が異国において、母語ではない言語を駆使しながら情報収集をする、書類作成をする、面接試験を受けることを想像すると、そのハードルはあまりにも高く感じられる。そのため私は、日本における就職活動に積極果敢に挑む外国人留学生は、その事実だけで称賛に値すると考えている。一方で、彼ら彼女らに対する社会の、企業の風当たりはいかがなものだろうか。近年の企業の「外国人慣れ」も示唆される一方で、実際には外国人留学生が企業担当者から辛辣な声をかけられることもある。本調査で聞き取り調査を行った、ある外国人留学生が以下のように語ったことがあった。

一度企業の人に、「〇〇さん(聞き取り対象者の本名)の日本語は全然駄目。もっと勉強してください。」と言われたことがあって、めちゃくちゃショックを受けました。

確かに聞き取り調査を行った際も完璧な日本語を話していたとはいえないが、難しいトピックについても日本語で多彩な表現を使って流暢に持論を語っていたことが印象深かった。

企業が自社の成長に貢献してくれる人材を本気で採用する際に、外国人留学生の日本語能力が懸念材料になることは理解できる。外国人留学生に対して明らかな優遇措置を設けることにも疑問が残る。しかしながら、ビジネスレベルの日本語能力を習得し、日本において就職活動に積極果敢に挑戦する外国人留学生のコンピテンシーを、企業はどこまで正しく評価できているだろうか。

少子高齢化の進展と労働力人口の減少を背景に、日本では今後人材不足が更に深刻化することが予測されている。またグローバル化が凄まじい勢いで進展する現代において、もはやグローバルな視点を持たなければ企業の成長が見込めない時代になったと言っても過言ではなかろう。このような時代において、高度外国人人材の活用が日本社会の成長の鍵になると、私は考えている。日本の企業が、ひいては日本の社会が「多様性」をより寛容に受け入れる文化を醸成し、「高度外国人人材の卵」たる外国人留学生が当たり前の選択肢として「日本就職」を選べるようになり、本気で日本就職を望む外国人留学生全員が日本において思い切り働ける日が訪れることを心から望んでいる。

6. 謝辞

本論文の作成にあたり、たくさんの方々にご協力をいただきました。お忙しい中快く聞き取り調査の時間をくださった外国人留学生・元外国人留学生の皆様、また関連企業・組織の担当者の皆様、本当にありがとうございました。皆様との会話から本当に色々学ばせていただいて、卒業論文の調査を越えて素晴らしい時間を過ごさせていただきました。特に外国人留学生の皆様の日本語能力の高さには、いつも脱帽しておりました。私がお願いをして聞き取り調査をさせていただいてるのに、いつも私のほうがエネルギーをもらっていました。深く感謝申し上げると共に、既に内定をお持ちの皆様には心からの祝福を、これから就職活動を行う皆様、現在就職活動に取り組まれている皆様には心からのエールを送りたいと思います。

最後に、本論文の執筆にあたり様々なご指導を賜りました宮内先生、最後まで丁寧なご指導を頂きありがとうございました。怠けがちな私を奮い立たせてくれたのはいつも先生で、先生のサポートなしには本論文は書き上げられませんでした。

ご指導・ご協力をいただいた皆様に感謝の意を申し上げまして、謝辞とさせていただきます。

7. 参考文献

- 福岡昌子, 2015, 「留学生の就職に関する意識調査とビジネス日本語教育への示唆」
- 守屋貴司, 2018, 「外国人労働者の就労問題と改善策」
- 魚崎典子, 2014, 「高等教育機関における外国人留学生のキャリア支援のあり方: 日本の就職活動の特異性と留学生への周知方法をめぐって」『大阪大学国際教育交流センター研究論集』18:11-21
- 守屋貴司, 2012, 「日本企業の留学生などの外国人採用への一考察」, 『日本労働研究雑誌』623:1-36
- 株式会社KITABA, 2015, 「外国人留学生誘致検討調査業務事業報告書」
- 門間 由記子, 高橋 修, 猪股 歳之, 2014, 「就労における困難さの研究－外国人留学生の日本での就職活動に着目して」
- 李敏, 2019, 「日本における外国人留学生の採用－『高度外国人人材』という虚像」
- 葦原恭子, 2018, 「高度外国人人材に求められる『仲介』スキルとは－タイで活躍する高度外国人人材に対する実態調査を中心に」『琉球大学国際教育センター紀要』2:1-17
- 中園桐代, 2019, 「人口減少地域における外国人技能実習生の受け入れの課題－北海道オホーツク地区を事例として」, 『開発論集』103:1-23
- 志甫啓, 2012, 「外国人留学生の日本における就職・採用の動向と大学による支援の意義」, 『関西学院大学高等教育研究』2:15-33
- 株式会社ディスコ, 2018, 「外国人留学生／高度外国人人材の採用に関する企業調査」
- 株式会社ディスコ, 2019, 「外国人留学生の就職活動状況」
- 文部科学省, 2008, 「『留学生 30 万人計画』 骨子」
- 株式会社フューチャー・デザイン・ラボ, 2012, 「外国人留学生の就職活動に関する意識調査結果」
- 内閣府政策統括官, 2019, 「企業の外国人雇用に関する分析－取組と課題について－」
- 新日本有限責任監査法人, 2015, 「平成 26 年度産業経済研究委託事業」
- 文部科学省, 2018, 「外国人留学生の就職促進について」
- 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング, 2018, 「留学生・高度外国人人材の受け入れの実態と課題」
- 日本貿易振興機構 (JETRO), 2018, 「高度外国人人材活用資料集」
- みずほ情報総研株式会社, 2019, 「-IT 人材需給に関する調査-調査報告書」
- 「就職みらい研究所」, 2019, 「就職プロセス調査 (2020 年卒)」
- 「日本語能力試験 (JLPT)」ホームページ「N1~N5: 認定の目安」
<https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html> (2019 年 12 月 19 日最終アクセス)
- 「マイナビ 2020」ホームページ「外国人留学生特集」
<https://job.mynavi.jp/conts/2020/tok/p/1247/> (2019 年 12 月 19 日最終アクセス)

- 「北大フロンティアプログラム」 ホームページ
<http://www.eng.hokudai.ac.jp/others/asia01/> (2019 年 12 月 19 日最終アクセス)
- 「外国人雇用の教科書」 ホームページ
<https://visa.yokozeki.net/tokutei-ginou/#i-2> (2019 年 12 月 19 日最終アクセス)
- 「公益財団法人国際研修協力機構 (JITCO)」 ホームページ「在留資格「特定技能」
とは」
<https://www.jitco.or.jp/ja/skill/> (2019 年 12 月 19 日最終アクセス)
- 「札幌商工会議所」 ホームページ
<https://www.sapporo-cci.or.jp/index.html> (2019 年 12 月 19 日最終アクセス)
- 「公益財団法人札幌国際プラザ」 ホームページ
https://www.plaza-sapporo.or.jp/citizen_j/ (2019 年 12 月 19 日最終アクセス)
- 「キャリアバンク株式会社」 ホームページ「厚生労働省委託事業外国人留学生採用サ
ポート事業」
<http://www.ryugakusei-support.com/> (2019 年 12 月 19 日最終アクセス)
- 「北海道大学」 ホームページ「現代日本学プログラム」
<https://www.hokudai.ac.jp/international3/ryugaku/folder908/folder907/folder908/>
(2019 年 12 月 19 日最終アクセス)
-
-